

月例経済報告等に関する関係閣僚会議  
議事録

---

(開催要領)

1. 開催日時：令和2年9月24日（木）17:03～17:18
  2. 場所：官邸4階大会議室
  3. 出席者
- |       |                              |
|-------|------------------------------|
| 菅 義偉  | 内閣総理大臣                       |
| 加藤 勝信 | 内閣官房長官                       |
| 西村 康稔 | 内閣府特命担当大臣（経済財政政策） 兼 経済再生担当大臣 |
| 麻生 太郎 | 財務大臣                         |
| 梶山 弘志 | 経済産業大臣                       |
| 武田 良太 | 総務大臣                         |
| 黒田 東彦 | 日本銀行総裁                       |
| 二階 俊博 | 自民党幹事長                       |
| 斉藤 鉄夫 | 公明党幹事長                       |

(説明資料)

- 月例経済報告
- 月例経済報告等に関する関係閣僚会議資料
- 日本銀行資料

## 2020-9-24 月例経済報告等に関する関係閣僚会議

(加藤官房長官) ただいまから「月例経済報告等に関する関係閣僚会議」を開催いたします。

なお、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、麻生副総理、梶山経済産業大臣、武田総務大臣、黒田日本銀行総裁はテレビ会議による御出席となります。

それでは、経済財政政策担当大臣から御説明をお願いします。

(西村大臣) 御説明いたします。お手元の配付資料の1ページ目を御覧ください。景気の現状についての総括判断は、「景気は、新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にあるが、このところ持ち直しの動きがみられる」と先月の判断を維持しています。

先行きにつきましては、「感染拡大の防止策を講じつつ、社会経済活動のレベルを上げていくなかで、各種政策の効果や海外経済の改善もあって、持ち直しの動きが続くことが期待される。ただし、国内外の感染症の動向や金融資本市場の変動等の影響を注視する必要がある。」としております。

3ページ目を御覧ください。まず、輸出と生産について御紹介をいたします。左上の図は、我が国の主要貿易相手国の景況感ですが、いずれの国・地域も経済活動の再開が進む中で、改善しています。

こうした動きを背景に、左下の我が国の輸出は、持ち直しています。

品目別にみますと、右上の図のとおり、青い線のアメリカ向けを中心に、自動車関連財の輸出が持ち直しています。

こうした輸出の持ち直しを受けて右下の製造業の生産は、6月、7月と増加しています。また、8月、9月の予測調査でも増加が続く見通しとなっております。緑が輸送機械、自動車であります。

4ページ目を御覧ください。個人消費についてです。左上の図のとおり、8月のカード支出に基づく消費動向につきましては、天候不順や感染者数の増加を背景として、旅行・外食等のサービスを中心に持ち直しの動きに足踏みがみられました。

8月の動きを販売側の統計からみますと、左下の図、財の支出であります自動車販売は増加したものの、サービス支出であります外食売上高の前年比減少幅はおおむね横ばいとなっています。

他方、右上の図のとおり、9月に入り、週当たりの消費額は、過去3年と同程度の水準で推移しています。ねずみ色の幅が過去3年の幅ですので、9月はその範囲に入りました。総じてみますと、個人消費は、一部に足踏みも見られますが、持ち直してきています。

右下ですけれども、8月末に調査しました景気ウォッチャー調査、いわゆる街角景気です。現状判断・先行き判断共に、家計・企業・雇用分野のいずれも前月から上昇をしています。

5ページ目であります。個人消費の先行きを占う上で大事な雇用・所得環境についてです。

我が国の雇用情勢は、弱い動きとなっておりますが、左上の図のとおり、青い線ですけれども、5月以降、就業者数は緩やかに増加をし、また、縦の棒グラフですけれども、4月に急増しました休業者数も7月には3月の水準近くまで減少するなど、経済活動の引上げに合わせて、底堅い動きが出てきています。

左下の日次の有効求人数も、マイナスではあるのですけれども、9月まで3か月連続で前年比のマイナス幅が少しずつですけれども、縮小してきておりますので、下げ止まった感が見られます。

さらに賃金面、右上の図ですけれども、現金給与総額の前年比のマイナス幅が縮小してきています。下げ止まりの兆しがみられます。内訳は、青い部分の所定外給与、つまり残業代のマイナス寄与が、残業時間が回復することによって縮小してきています。また、白い部分の所定内給与も、今年の賃上げ、4月に1.9%ということでもありますから、それにも支えられて、前年比プラスで推移しています。

ボーナスを意味する赤い部分の特別給与、これは全体では前年比マイナスではありますが、このうちパートタイム労働者でみますと、右下の表のとおり前年比プラスとなっております。これは、同一労働同一賃金制度の導入によって、パートタイム労働者にも賞与、ボーナスが与えられるなど、処遇面での改善が反映されていると考えられます。

以上のとおり、我が国の景気は、依然として厳しい状況にありますけれども、持ち直しの動きがみられます。引き続き、感染対策と経済活動を両立し、雇用を守り、事業を継続するために、躊躇なく対策を講じ、経済の回復につなげてまいります。このため、まずはこれまでの1次補正、2次補正予算を引き続き迅速に執行し、経済をしっかりと下支えしてまいります。

その他の指標については事務方から説明させます。

(内閣府政策統括官) 6ページ目を御覧ください。企業の動向でございます。左上の企業の「経常利益」は、売上げの減少により大幅な減少が続いております。

しかし、左下の図の企業向けの銀行貸出でございますが、資金繰り支援の下支えもありまして、緑の線、「運転資金向け」の貸出は大幅に増加しております。

その下、右の図ですけれども、倒産件数全体は横ばいとなっております。

右上の「設備投資」でございます。企業収益の減少や、先行き不透明感を受けて、赤い線の製造業、緑の非製造業共に弱い動きとなっております。右下は、2020年度の企業の設備投資の計画です。全体としては慎重な見方をしてはいますが、ソフトウェア投資については底堅い動きが計画されております。

次は7ページ、物価でございます。

左上の図、「原油価格・ガソリン価格」は4、5月を底に持ち直しております。こうした動き、あるいは国内外の経済活動再開を受けて、左下の「国内企業物価」や「企業向けサービス価格」は緩やかに上昇しております。

右側の「消費者物価」でございます。赤い線の生鮮食品及びエネルギーを除く総合、いわゆるコアコアで基調をみてまいりますと、感染症の影響により需要が弱いことを反映いたしまして、ほぼ横ばいの動きとなっております。

8ページでございます。海外経済の動向です。

世界の経済活動は、感染拡大防止策の緩和とビジネス再開によって上向いております。左上の表はOECDによる成長率見通しでございますが、2020年の世界の実質GDPはマイナス4.5%の成長と予測されています。しかし、この括弧内、プラス1.5は6月時点の見通しからの差分でございます。経済活動の再開を反映いたしまして、上方修正されております。2021年は世界全体で5%の成長が予測されております。

鉱工業生産、輸出の動向を地域別にみてまいります。左下の図はアジアでございます。4～5月を底に生産や輸出の前年比のマイナス幅が縮小している国、あるいは増加している国もございます。右側の図は、欧米の生産及び輸出でございます。こちらも経済活動の再開を背景に、4～5月を底に持ち直す動きがみられます。

説明は以上でございます。

(加藤官房長官) それでは、日本銀行総裁から説明をお願いいたします。

(黒田日本銀行総裁) 私からは、内外の金融市場の動向について御説明します。

まず、全体感を申し上げます。内外の金融資本市場は、感染症への警戒感からなお神経質な状況にあります。ひと頃の緊張は緩和しています。8月27日の前回会合以降の動きをみますと、米欧の株価は下落していますが、我が国の株価は横ばい圏内で推移しています。為替はドル安やユーロ安方向での動きがみられましたが、金利については多くの国で、総じて落ち着いた動きとなっております。

配付資料の1ページを御覧ください。はじめに株式市場の動きです。

上段右、青い線の米国株価をみますと、これまで早めのテンポで上昇を続けてきたITセクターなどに調整売りが見られたことから下落していますが、水準としては、本年2月頃と同程度となっております。緑の線の欧州株価は、感染症拡大への警戒感から下落しています。

下段左、赤い線の我が国の株価は、多少の振れを伴いつつも、横ばい圏内で推移し、足下では2万3000円程度となっております。

下段右、株価のボラティリティ指標をみますと、日米ともに、感染症拡大前と比べると依然として高めの水準で推移しています。

2ページは債券市場の動きです。

上段のグラフ、青い線の米国の長期金利は、おおむね横ばいで推移しています。赤い線

の我が国の長期金利も横ばい圏内の動きとなっています。

こうした中、下段右の社債利回りの対国債スプレッドですが、青と緑の線で示した米国と欧州は、2月以前に比べると、なお高めの水準になっています。

3ページは為替市場の動きです。上段赤い線の円の対ドル相場は、米国の株価下落やFRBによる低金利政策が長期化するとの見方などを背景に、ドル安・円高方向での動きがみられた後、幾分値を戻し、足下では、105円台半ばとなっています。青い線の円の対ユーロ相場は、これまでのユーロ高の巻き戻しの動きがみられる下で、感染症拡大への警戒感が高まったことなどから、ユーロ安・円高方向で推移しています。

この間、下段左、紫の線のポンド相場については、英国とEUの間の通商交渉を巡る先行き不透明感や感染症拡大への警戒感から、ポンド安・ドル高方向で推移しています。

4ページは国内の金融環境です。

企業の資金繰りには厳しさがみられていますが、政府、日本銀行の措置と金融機関の取組により、外部資金の調達環境は緩和的な状態が維持されています。

下段左の資金調達コストは引き続き低水準で推移しています。

また、下段右、赤い線の銀行貸出残高の前年比伸び率は3か月連続で6%台となっており、青い線のCP・社債発行残高も前年比10%を超える高い伸びが続いています。

日本銀行としては、引き続き資金繰り支援特別プログラム、円貨・外貨の潤沢な供給、ETF等の積極的な買入れの3つの柱をしっかりと実施することにより、企業等の資金繰り支援と金融市場の安定維持に努めてまいります。

以上です。

(加藤官房長官) ありがとうございました。

以上の説明につきまして御質問等があれば承りたいと思います。

よろしいでしょうか。

それでは時間となりましたので、「月例経済報告等に関する関係閣僚会議」を終了させていただきます。